

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	愛知県立大学
設置者名	愛知県公立大学法人

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学共通科目	学部等共通科目	専門科目	合計		
外国語学部	英米学科		18	0	9	27	13	
	ヨーロッパ学科 フランス語圏専攻				2	20	13	
	ヨーロッパ学科 スペイン語圏専攻				2	20	13	
	ヨーロッパ学科 ドイツ語圏専攻				0	18	13	
	中国学科				0	18	13	
	国際関係学科				0	18	13	
日本文化学部	国語国文学科		0	0	10	28	13	
	歴史文化学科				25	43	13	
教育福祉学部	教育発達学科		12	0	46	76	13	
	社会福祉学科				36	66	13	
看護学部	看護学科		10	0	100	110	13	
情報科学部	情報科学科		18	0	21	39	13	
(備考) 看護学部は全学共通科目を10単位までしか履修できない。								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

https://www.bur.aichi-pu.ac.jp/kyoken/shugakushien/jitsumu.html

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	愛知県立大学
設置者名	愛知県公立大学法人

1. 理事（役員）名簿の公表方法

<https://www.puc.aichi-pu.ac.jp/gaiyou.html>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	東邦ガス株式会社相談 役	2021.4.1～ 2023.3.31	法人運営
非常勤	愛知工業大学教授	2021.4.1～ 2023.3.31	法人運営
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	愛知県立大学
設置者名	愛知県公立大学法人

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>授業計画には、授業概要、到達目標、授業計画、授業時間外学習、教科書・参考書および成績評価の方法をその割合とともに記載している。</p> <p>授業計画の記載内容については、毎年、全学教務委員会にて審議を行っている。ここでの結果を踏まえて、授業開始前年度の1月下旬に、記載すべき内容と留意事項とを提示した上で、各教員に当該授業計画の作成を依頼している。作成された授業計画は、2月中旬に、各学部の教務委員が、その記載内容を確認、必要に応じて修正を当該教員に依頼している。これらの過程を経て、3月に授業計画を公開している。</p> <p>授業計画は、学内向けにはポータルサイトを用いて、学外向けには専用のウェブページを用いて、それぞれ公表している。</p>	
授業計画書の公表方法	https://univ.aichi-pu.ac.jp/up/faces/login/Com00501B.jsp
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>成績評価等の客観性、厳格性を担保するための方針を全教員に配付している。この方針では、1)成績評価方法及び採点基準をシラバスに明記すること、2)成績分布の著しい偏在に留意すること、3)成績評価に関する情報の開示に備えること、4)可能な限り試験後に答案を学生に返却し採点基準や平均点、成績分布を示すこと、などを明示している。</p> <p>各授業科目の成績評価は、担当教員の責任下において、授業計画で公表している評価項目とその割合に基づいて行われているが、学生が自分の成績に関して疑義を抱いた場合、問い合わせをすることを認めている。その際、当該授業科目の教員と学生との直接のやり取りを禁じており、必ず事務職員を介すことを義務付けている。これにより成績管理の厳格性を担保している。</p>	

<p>3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p> <p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要) 各履修科目の成績 (S, A, B, C, D、S~Cは合格、Dは不合格) から式</p> $GPA = \frac{4 \times S \text{ の単位数} + 3 \times A \text{ の単位数} + 2 \times B \text{ の単位数} + 1 \times C \text{ の単位数}}{S, A, B, C, D \text{ の単位数}}$ <p>によって算出される GPA を用いた成績指標を設定している。なお、入学前に取得するなどによって単位認定された科目や当該学科・専攻の卒業単位として認められない科目は GPA に算入されない。各学生の GPA は、毎学期末に成績を登録することで教務システムによって自動的に計算され、成績とともに提示される。GPA の計算方法は、大学ウェブサイトで公表するとともに、学生便覧ならびに入学時ガイダンスにて学生に提示している。</p> <p>適正な成績評価の実施のため、教養教育科目では分野ごとに、専門教育科目では学科・専攻ごとに、S, A, B, C, D の割合を算出した成績分布を作成し、これを全学教務委員会および教育研究審議会で共有している。</p>	
<p>客観的な指標の 算出方法の公表方法</p>	<p>https://www.aichi-pu.ac.jp/disclosure/grade/gpa.html、学生便覧</p>
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p> <p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要) 全学および学部または学科ごとに卒業認定方針を策定し、大学ウェブサイトで一般に公表している。卒業に必要な修得単位数など卒業に係る基準は、学則で、卒業及び学位についての章を設けて、定めている。</p> <p>各学部の学位授与方針と卒業認定基準については、学生便覧に明記して学生に周知するとともに、入学時のオリエンテーションと年度初めの在学生向け履修ガイダンスで時間を割いて説明している。</p> <p>学生の成績は、教務システムで一元管理しており、その出力結果を基に、各学部の教務委員会で、在学期間などを含めて卒業の可否を確認している。この結果は、さらに、各学部教授会においても審議される。これらの結果を受け、最終的に学長が卒業を認定する。</p>	
<p>卒業の認定に関する 方針の公表方法</p>	<p>https://www.aichi-pu.ac.jp/disclosure/policy/index.html</p>

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	愛知県立大学
設置者名	愛知県公立大学法人

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.puc.aichi-pu.ac.jp/osirase.html
収支計算書又は損益計算書	https://www.puc.aichi-pu.ac.jp/osirase.html
財産目録	-
事業報告書	https://www.puc.aichi-pu.ac.jp/osirase.html
監事による監査報告(書)	https://www.puc.aichi-pu.ac.jp/osirase.html

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:愛知県公立大学法人2021年度年度計画 対象年度:2021年度)
公表方法: https://www.puc.aichi-pu.ac.jp/osirase.html
中長期計画(名称:愛知県公立大学法人第三期中期計画 対象年度:2019~2024)
公表方法: https://www.puc.aichi-pu.ac.jp/osirase.html

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: https://www.aichi-pu.ac.jp/disclosure/university_self_inspection.html
--

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: https://www.aichi-pu.ac.jp/disclosure/accreditation.html

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

① 教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 外国語学部
教育研究上の目的 (公表方法 : https://www.aichi-pu.ac.jp/disclosure/purpose/purpose.html) (概要) 外国語学部は、外国語の高度で実践的な運用能力を身につけ、それを基礎として外国諸地域の社会、政治、経済、歴史、文学、文化、思想並びに言語に関する専門的知識を獲得し、国際社会に関する深い理解を養うとともに、世界の中で自らの文化の意義を自覚し、「グローバルな多文化共生」の実現に向けて、国際社会に活躍の場を見出し、あるいは地域の国際化に貢献しうる人材の育成を目指す。
卒業の認定に関する方針 (公表方法 : https://www.aichi-pu.ac.jp/disclosure/policy/index.html) (概要) 外国語学部は、高度な外国語運用能力と外国の文化・社会に関する専門知識を身につけ、それらを土台に 21 世紀国際社会を創造し、地域社会に貢献するグローバル人材の育成を目標とし、所定の期間在学した上で、外国語学部の教育理念・教育目標によって作成された学位授与方針に基づいて設定された専門教育科目および全学共通の教養教育科目を履修して所定の単位を修得した者に学士の学位を授与する。 外国語学部の学位授与方針 https://www.aichi-pu.ac.jp/disclosure/policy/foreign_studies.html
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法 : https://www.aichi-pu.ac.jp/disclosure/policy/index.html 、学生便覧、UNIPA に掲載) (概要) 学位授与方針に基づいて、知識・理解、汎用的技能、志向性、統合的な学習経験と創造的思考力を養成するために専門教育科目を設置している。また、知的関心、柔軟な思考力、他者との協同する態度の基盤を育成するために、全学共通の教養教育科目を設置している。 【英米学科】 英米学科は、高度なコミュニケーション能力の養成と、英語圏の社会、文学・文化ならびに言語に関する専門研究の推進によって、真の国際人として活躍できる人材を育成することを目標としている。この目標を達成するため、次の (1) ~ (3) に示す教育課程を編成する。 (1) 高度かつ実践的な英語能力を修得するため、1 年次から 4 年次まで、レベルや目的に応じた専攻言語科目を設置する。 (2) 地域社会と国際社会を結ぶことができる人材の育成のため、英語圏の国々に関する深い理解を育む科目を設置する。 (3) 概論などの基礎科目を修得後、3 年次より「言語コース」、「社会コース」、「文化コース」、「EIC (English for Intercultural Communication) コース」(EIC コースは 2 年次より開始) の 4 コースを配置し、専門に特化した、高度な知識の涵養を目指すとともに研究成果を英語論文でまとめられる力を養成する。 【ヨーロッパ学科 フランス語圏専攻】 (1) 高度かつ実践的なフランス語運用能力を修得するため、1 年次から 4 年次まで、レベルや目的に応じた専攻言語科目を開設する。 (2) 地域社会と国際社会を結ぶことができる人材の育成のため、フランス本国のみ

ならず、アフリカを始めとするフランス語圏、さらにはヨーロッパ全般に関する深い理解を育む科目を開設する。

(3) 1・2年次における基礎的な学修の後に、3年次から「言語・文化コース」・「社会コース」の2コースを設置し、専門に特化した高度な知識を涵養する。

【ヨーロッパ学科 スペイン語圏専攻】

(1) 高度かつ実践的なスペイン語能力を修得するため、1年次から4年次まで、レベルや目的に応じた専攻言語科目を設けた教育課程を編成する。

(2) 地域社会と国際社会を結ぶことができる人材の育成のため、スペイン・ラテンアメリカに関する深い理解を育む科目を設置した教育課程を編成する。

(3) 基礎科目修得後、3年次より「言語・文化コース」、「スペイン・ヨーロッパ社会コース」、「ラテンアメリカ・新興国社会コース」の3コースを配置し、専門に特化して、高度な知識の涵養を目指す。

【ヨーロッパ学科 ドイツ語圏専攻】

(1) 高度かつ実践的なドイツ語能力を修得するため、1年次から4年次まで、レベルや目的に応じた専攻言語科目を設けた教育課程を編成する。

(2) 地域社会と国際社会を結ぶことができる人材の育成のため、ドイツ語圏を中心に北欧、さらにヨーロッパ全般に関する深い理解を育む科目を設置した教育課程を編成する。

(3) 基礎科目修得後、3年次より「言語・文化コース」、「社会コース」の2コースを配置し、専門に特化して高度な知識の涵養を目指す。

【中国学科】

(1) 本学科は高度な中国語運用能力と、中国語圏に対する多角的かつ構造的な分析能力を養成することを理念とする。

(2) この中国語能力と分析能力に基づいて、優れた異文化理解能力と国際的判断力を発揮できる人材の育成を目指す。

(3) 4年間を通じてきめ細かい指導を行い、特に言語科目や演習科目については、可能な限り少人数のクラス編成となるよう配慮する。

【国際関係学科】

(1) 本学科は高度な中国語運用能力と、中国語圏に対する多角的かつ構造的な分析能力を養成することを理念とする。

(2) この中国語能力と分析能力に基づいて、優れた異文化理解能力と国際的判断力を発揮できる人材の育成を目指す。

(3) 4年間を通じてきめ細かい指導を行い、特に言語科目や演習科目については、可能な限り少人数のクラス編成となるよう配慮する。

外国語学部のカリキュラム・ポリシー

https://www.aichi-pu.ac.jp/disclosure/policy/foreign_studies.html

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：

https://www.aichi-pu.ac.jp/disclosure/policy/foreign_studies.html)

(概要)

外国語学部では以下の人物を求める。

・基礎的な学力を身につけ、特に英語や論理的思考に秀で、かつ日本語による文章表現能力を備えた人

・外国語や異文化、国際問題や国際交流に強い関心があり、それに関わる専門科目とともに広く深い教養を学ぶことによって、地域社会や国際社会の発展のために貢献したいという高い志と意欲がある人

学部等名 日本文化学部
教育研究上の目的 (公表方法： https://www.aichi-pu.ac.jp/disclosure/purpose/purpose.html)
(概要) 日本文化学部は国語国文学科と歴史文化学科の2学科で構成する。自らがその構成員として生きる、社会的・文化的な枠組としての日本を、学問研究の対象として見つめる、人文科学系・社会科学系の学部である。2学科で構成する本学部では、言語と文学ならびに歴史と社会という視点によって、複眼的かつ総合的に教育研究する。つまりそれは、文化創造活動の根本原理とその具体的な現れを、長い時代幅における変化と発展に即して、価値ある将来展望を見出す目的のもとに探求するものである。国際社会における文化交流が進展し、地球規模で解決すべき問題が次々に現れている。その中であって、地に足をつけた地域固有の文化創造活動の必要性がいよいよ高まりつつある。それが、人々の主体性を立ち上げる根拠になる。
卒業の認定に関する方針 (公表方法： https://www.aichi-pu.ac.jp/disclosure/policy/index.html)
(概要) 日本文化学部は、言語と文学ないし歴史と社会を探究する方法を身につけ、グローバルとローカルへの目配りをもった日本文化の理解者として、人間性ある将来文化の創造に参加できる人を育てることを目標とし、所定の期間在学した上で、日本文化学部の教育理念・教育目標によって作成された学位授与方針に基づいて設定された専門教育科目および全学共通の教養教育科目を履修して所定の単位を修得した者に学士の学位を授与する。 日本文化学部の学位授与方針 https://www.aichi-pu.ac.jp/disclosure/policy/japanese_studies.html
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法： https://www.aichi-pu.ac.jp/disclosure/policy/index.html 、学生便覧、UNIPAに掲載)
(概要) 学位授与方針に基づいて、知識・理解、汎用的技能、志向性、統合的な学習経験と創造的思考力を養成するために専門教育科目を設置している。また、知的関心、柔軟な思考力、他者との協同する態度の基盤を育成するために、全学共通の教養教育科目を設置している。 【国語国文学科】 (1) 日本の文学や日本の言語についての専門的な研究と教育をとおして、自国の文化に対する深い理解と教養を身に着けた人材の養成を目指し教育課程を編成する。 (2) 各時代・分野にわたって科目を配置し、高度でかつ偏りのないつりあいのとれた教育に配慮し、専門的知識の習得に加え、的確な判断力と学問的精神を養うよう教育を行う。 (3) 専門教育科目に加え、知的関心、柔軟な思考力、他者と協同する態度の基盤を育成するための全学共通科目をもって日本文化学部国語国文学科の教育課程を編成する。 【歴史文化学科】 (1) 日本歴史に即した視点と、現代社会を見据える視点とを二本柱とし、その固有性と普遍性とを学び、日本の文化とその現状に関する高度な知識と深い理解力、着実な思考力、課題解決への実行力を修得することができるように教育課程を編成する。 (2) 歴史文化コースと社会文化コースの2コースを配置し、より専門性の高い教育を行う。 (3) 専門教育科目に加え、知的関心、柔軟な思考力、他者と協同する態度の基盤を育

<p>成するための全学共通科目をもって、日本文化学部歴史文化学科の教育課程を編成する。</p> <p>日本文化学部のカリキュラム・ポリシー https://www.aichi-pu.ac.jp/disclosure/policy/japanese_studies.html</p>
<p>入学者の受入れに関する方針 (公表方法： https://www.aichi-pu.ac.jp/disclosure/policy/japanese_studies.html)</p>
<p>(概要) 日本文化学部では以下の人物を求める。 ①世界の中での日本文化を理解するために必要な国語・社会に関する幅広い知識と関心を持つ人 ②社会や文化のあり方について、論理的に思考・判断し、それを他者に表現できる人 ③地域・社会に主体的に関わる意欲を持ち、それを世界に発信する態度を有する人</p>
<p>学部等名 教育福祉学部</p>
<p>教育研究上の目的 (公表方法：https://www.aichi-pu.ac.jp/disclosure/purpose/purpose.html)</p>
<p>(概要) 教育福祉学部では、人間の発達を支援する教育の科学と人間の生活の自立を目指す福祉の科学が協力・連携して「成熟した共生社会」の創造に貢献できるような教育と研究を推進することを目的とする。</p>
<p>卒業の認定に関する方針 (公表方法： https://www.aichi-pu.ac.jp/disclosure/policy/education_and_welfare.html)</p>
<p>(概要) 所定の期間在学した上で、教育福祉学部の教育理念・教育目標によって作成された学位授与方針に基づいて設定された専門教育科目および全学共通の教養教育科目を履修して所定の単位を修得した者に学士の学位を授与する。 また、教育福祉学部では、学生が卒業時に次のような力を獲得していることをディプロマ・ポリシーとする。 ①教育と福祉を学際的に学ぶことで、人間の尊厳や発達に基づいた価値観を向上させる力 ②教育・福祉の諸問題について、専門性を発揮しつつ他職種と協働して問題を解決する力 ③教育・福祉の諸問題に関するさらなる探究や問題解決への志と思想</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：https://www.aichi-pu.ac.jp/disclosure/policy/index.html、学生便覧、UNIPAに掲載)</p>
<p>(概要) 学位授与方針に基づいて、知識・理解、汎用的技能、志向性、統合的な学習経験と創造的思考力を養成するために専門教育科目を設置している。また、知的関心、柔軟な思考力、他者との協同する態度の基盤を育成するために、全学共通の教養教育科目を設置している。教育福祉学部では学部教育の目的と各学科の教育目標に基づいてカリキュラムを編成し、ディプロマ・ポリシーの実現を目指している。</p> <p>教養教育科目 ・本学の学習に必要な基礎的な学力、学習方法の習得を可能にしていくとともに、多</p>

角的な視点から専門領域を超えて問題を探究する姿勢を育む。

学部共通科目

・教育発達学および社会福祉学それぞれの基礎理論を学習するとともに、両者を統一する教育福祉学の視点を学ぶ。

・「教育福祉学基礎論」「教育福祉学基礎演習」「教育福祉学特殊講義」などの学部共通科目を設置し、学科横断型の学際的な学びと2学科の学生の交流を進める。

学科専門科目

・学生が所属学科の学問を体系的に学ぶことを通して、教育福祉の専門職に携わるための基礎的知識と実践的な技能を習得し、卒業後には諸問題の科学的な把握の仕方やその解決の方法について専門的力量を発揮するとともに専門性の向上を目指すよう指導する。

・各学科とも、調査・現場学習・発表・討論などのアクティブラーニングを取り入れた、学生の主体性を重視する少人数制の参加型授業を重視する。また、授業時間外での調査や発表準備等のための自主的・主体的な学習活動を支援する。

資格・免許関連科目

・各学科の履修規程の定めるところにより、教育職員免許、保育士資格、社会福祉士および精神保健福祉士の国家試験受験資格、学校図書館司書教諭資格等に対応した関連科目を開設し、資格・免許の取得と各専門職への修業を支援する。

初年次教育

・入学当初の履修ガイダンス及び履修相談で、学生が自分の進路を考慮しながら主体的に学修計画を立てられるように指導援助する。また、カリキュラムの理解を促すとともに、課程外活動に連動する取組として、新入生歓迎合宿、資格・免許及び実習のガイダンス、教育・福祉現場におけるボランティア活動のガイダンス、オフィスアワーなどにより学生の勉学と大学生活をサポートする。

・1年次の「教育福祉学基礎演習」では、少人数に分かれて、文献検索・文献購読・レポート作成の方法など、大学での学びの導入的指導を丁寧に行う。

・授業の内外で、教育福祉現場を実際に見学・観察し、理論と実践を結びつけて考える機会を設定する。

ゼミ・卒業論文

・3年次からのゼミでは、少人数での討論を基本に、卒論につながる研究課題を見出し探究していけるよう指導するとともに、学生相互の学び合いを支援する。

・卒業論文の作成にあたっては、ゼミの担当教員による指導のみならず、学科として卒論構想発表会、卒論中間発表会、公開口述審査を通して、教員集団による指導と学生相互の学び合いの場を提供する。

自主的研究・活動支援

・教育福祉関連の学生自主企画研究、ボランティア活動、サークル活動等の自主的な課程外活動を奨励し、幅広い人間関係のなかでコミュニケーション力・組織力・企画力・問題探究力を培う機会を支援する。

キャリア教育

・1年次から、学部で作成したビデオの活用、卒業生や外部講師を招いての教育福祉分野の仕事の紹介等を積極的に行い、進路についてのイメージを涵養する。

・実習やボランティア活動などは、本人が適性を見極める機会としても位置づけ、専門職としての将来像や専門的能力の育成を支援する。

・「教育福祉研究会実践交流会」等により、主に教育福祉専門職に就いた卒業生のアフターフォローを行うとともに、在学生との交流を図り、専門職への希望を育む。

・専門職の国家試験や各種採用試験を経験した4年生が下級生に向けて行う就職報告会、国家試験対策報告会などにより、就職活動や卒業後の就業意識の形成を支援する。

・大学院説明会、授業への大学院生(TA)の参加、学生と院生との自主的研究活動などを通して、大学院進学への意欲を喚起し、より高度な専門性の習得や研究者として

<p>の進路を支援する。また、奨学金や日本学術振興会の特別研究員制度の紹介などを通して大学院での就学を支援する。</p> <p>各授業科目の評価方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個々の学生の状況に配慮した教育指導を行ったうえで、学部履修規程に定められた基準（A、B、C、D）で評価を行う。評価は、各科目により、発表・討論、レポート、筆記試験、口述試験等多様な方法を用いる。卒業論文については、主査と副査の複数教員による指導に基づき評価を行う。評価の結果は、その後の学生の学習支援および授業改善等に活用し、学生自身がその後の学習活動および将来の進路選択の材料とすることができるよう支援する。 <p>教育福祉学部のカリキュラム・ポリシー https://www.aichi-pu.ac.jp/disclosure/policy/education_and_welfare.html</p>
<p>入学者の受入れに関する方針 （公表方法： https://www.aichi-pu.ac.jp/disclosure/policy/education_and_welfare.html）</p>
<p>（概要） 教育福祉学部では以下の人物を求める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現代社会が抱える教育や福祉の問題に深い関心を持ち、地域社会に貢献しようとする高い志と意欲のある人 ・教育・福祉の専門的知識と技術を学際的に学ぶための基礎的な学力を備えた人 ・教育・福祉に関わる多様な問題を科学的に把握し、その解決方法を探究する土台となる論理的思考力を備えた人 ・教育・福祉の専門性を発揮しながら主体的に多様な他者や文化を理解し、協働するための基礎となるコミュニケーション力を備えた人
<p>学部等名 看護学部</p>
<p>教育研究上の目的 （公表方法：https://www.aichi-pu.ac.jp/disclosure/purpose/purpose.html）</p>
<p>（概要） 看護学部は、人間性を尊重した看護教育、実践力が身に付く実習を行うことにより、科学的な根拠に基づく確かな知識、専門技術を修得し、高い実践能力と的確な判断力を養うとともに、高い倫理性を有し、主体的に行動できる人間性豊かな人材を育成することを教育研究目的とする。</p>
<p>卒業の認定に関する方針 （公表方法：https://www.aichi-pu.ac.jp/disclosure/policy/index.html）</p>
<p>（概要） 看護学部では、21世紀の国際社会、少子高齢社会で活躍するのに必要な看護実践力を身につけることを目標とし、所定の期間在学した上で、看護学部の教育理念・教育目標によって作成された学位授与方針に基づいて設定された専門教育科目および全学共通の教養教育科目を履修して所定の単位を修得した者に学士の学位を授与する。</p> <p>看護学部のディプロマ・ポリシー https://www.aichi-pu.ac.jp/disclosure/policy/nursing_and_health.html</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 （公表方法：https://www.aichi-pu.ac.jp/disclosure/policy/index.html、学生便覧、UNIPAに掲載）</p>

<p>(概要)</p> <p>学位授与方針に基づいて、知識・理解、汎用的技能、志向性、統合的な学習経験と創造的思考力を養成するために専門教育科目を設置している。また、知的関心、柔軟な思考力、他者との協同する態度の基盤を育成するために、全学共通の教養教育科目を設置している。</p> <p>1. 看護学部では 21 世紀の国際社会、少子高齢社会で活躍する優秀な看護専門職の育成を目指し、順次性、体系性のあるカリキュラムを編成する。</p> <p>2. 看護職として豊かな人間性とグローバルな視野を持ち、科学的判断のもとに看護の展開ができるような実践力を身につけるために、専門基礎・関連科目の講義・演習および看護学の講義・演習・実習、および卒業研究を学年進度に合わせて配置する。</p> <p>3. 以上の専門教育科目に加え、知的関心、柔軟な思考力、他者と協働して解決策を探り行動する事のできる力の基盤を育成するための教養教育科目をもって、看護学部看護学科の教育課程を編成する。</p> <p>看護学部のカリキュラム・ポリシー https://www.aichi-pu.ac.jp/disclosure/policy/nursing_and_health.html</p>
<p>入学者の受入れに関する方針 (公表方法 : https://www.aichi-pu.ac.jp/disclosure/policy/nursing_and_health.html)</p>
<p>(概要)</p> <p>看護学部では以下の人物を求める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多様な人々と連携・協働するために必要な日本語力と英語力、生命現象を理解するために必要な理科と数学の基礎学力、社会の動きを理解するために必要な地理・歴史、公民の基礎学力を備えた人 ・論理的に思考、判断し、その結果を自分の意見として伝えることができる人 ・看護に関心を持って積極的に学習する意欲がある人 ・人間や人間を取り巻く社会の変化に関心を持ち、人に対する思いやりがあり、人と関わることができる人
<p>学部等名 情報科学部</p>
<p>教育研究上の目的 (公表方法 : https://www.aichi-pu.ac.jp/disclosure/purpose/purpose.html)</p>
<p>(概要)</p> <p>情報科学部では、情報の科学と技術に関する基礎知識を身に付け、新たな情報技術に対応できる能力を有し、情報化社会を支えて社会で活躍できる実力を持つ情報システム技術者を養成する。</p>
<p>卒業の認定に関する方針 (公表方法 : https://www.aichi-pu.ac.jp/disclosure/policy/index.html)</p>
<p>(概要)</p> <p>情報科学部では、情報システム技術者として情報科学の学問領域の発展に貢献するとともに、地域社会の構築・発展に貢献することのできる高度な情報技術と総合的思考力を身につけることを目標とし、所定の期間在学した上で、情報科学部の教育理念・教育目標によって作成された学位授与方針に基づいて設定された専門教育科目および全学共通の教養教育科目を履修して所定の単位を修得した者に学士の学位を授与する。</p> <p>情報科学部の学位授与方針 https://www.aichi-pu.ac.jp/disclosure/policy/</p>

information_science_and_technology.html
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法:https://www.aichi-pu.ac.jp/disclosure/policy/index.html、学生便覧、UNIPAに掲載)</p>
<p>(概要) 学位授与方針に基づいて、知識・理解、汎用的技能、志向性、統合的な学習経験と創造的思考力を養成するために専門教育科目を設置している。また、知的関心、柔軟な思考力、他者との協同する態度の基盤を育成するために、全学共通の教養教育科目を設置している。</p> <p>(1) 情報科学の体系的な理解を図り、高度な情報技術を修得することができるように順次性、体系性をもった教育課程を編成する。</p> <p>(2) 情報システム、シミュレーション科学、知能メディア、ロボティクスの4コースを配置し、より専門性の高い教育を行う。</p> <p>(3) 専門教育科目に加え、知的関心、柔軟な思考力、他者との協同する態度の基盤を育成するための全学共通科目をもって情報科学部情報科学科の教育課程を編成する。</p> <p>情報科学部のカリキュラム・ポリシー https://www.aichi-pu.ac.jp/disclosure/policy/information_science_and_technology.html</p>
<p>入学者の受入れに関する方針 (公表方法：https://www.aichi-pu.ac.jp/disclosure/policy/information_science_and_technology.html)</p>
<p>(概要) 情報科学部では以下の人物を求める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高等学校で身につけるべき基礎的な知識・技能、特に数学の力を備えた人 ・基礎的な知識・技能を元にして問題を解決できる論理的思考力、ならびに自らの考えを表現する力を備えた人 ・情報科学に強い関心があり、その知識と技術を高めることによって社会の発展のために自らを生かしたいという意欲のある人

② 教育研究上の基本組織に関すること

<p>公表方法： https://www.aichi-pu.ac.jp/disclosure/cell/index.html https://www.aichi-pu.ac.jp/disclosure/cell/department.html</p>
--

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	3人	—					3人
外国語学部	—	35人	37人	8人	0人	0人	80人
日本文化学部	—	8人	9人	0人	0人	0人	17人
教育福祉学部	—	14人	13人	1人	0人	0人	28人
看護学部	—	15人	14人	9人	13人	0人	51人
情報科学部	—	15人	11人	4人	0人	0人	30人
一般教養	—	0人	4人	0人	0人	0人	4人
その他	—	0人	2人	0人	0人	0人	2人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
0人		355人					355人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）	公表方法： https://www.aichi-pu.ac.jp/disclosure/teachers/index.html						
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
外国語学部	340人	358人	105.3%	1,360人	1,658人	121.9%	0人	0人
日本文化学部	100人	118人	118.0%	400人	469人	117.3%	0人	0人
教育福祉学部	90人	100人	111.1%	360人	396人	110.0%	0人	0人
看護学部	90人	90人	100.0%	360人	365人	101.4%	0人	0人
情報科学部	90人	95人	105.6%	360人	397人	110.3%	0人	2人
合計	710人	761人	107.2%	2,840人	3,285人	115.7%	0人	2人
(備考) 編入学定員：情報科学部のみ実施。定員は「若干名」。								

b. 卒業者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
外国語学部	335人 (100.0%)	1人 (0.3%)	306人 (91.3%)	28人 (8.4%)
日本文化学部	97人 (100.0%)	2人 (2.1%)	86人 (88.6%)	9人 (9.3%)

教育福祉学部	93人 (100.0%)	0人 (0.0%)	89人 (95.7%)	4人 (4.3%)
看護学部	87人 (100.0%)	8人 (9.2%)	79人 (90.8%)	0人 (0.0%)
情報科学部	91人 (100.0%)	28人 (30.8%)	58人 (63.7%)	5人 (5.5%)
合計	703人 (100.0%)	39人 (5.6%)	618人 (87.9%)	46人 (6.5%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数 (任意記載事項)					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業生数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(備考)					

⑤ 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要)
授業計画には、授業概要、到達目標、授業計画、授業時間外学習、教科書・参考書および成績評価の方法をその割合とともに記載している。
授業計画の記載内容については、毎年、全学教務委員会にて審議を行っている。そこでの結果を踏まえて、授業開始前年度の1月下旬に、記載すべき内容と留意事項とを提示した上で、各教員に当該授業計画の作成を依頼している。作成された授業計画は、2月中旬に、各学部の教務委員が、その記載内容を確認、必要に応じて修正を当該教員に依頼している。これらの過程を経て、3月に授業計画を公開している。
授業計画は、学内向けにはポータルサイトを用いて、学外向けには専用のウェブページを用いて、それぞれ公表している。

⑥ 学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要)
成績評価等の客観性、厳格性を担保するための方針を全教員に配付している。この方針には、成績評価方法および採点基準をシラバスに明記すること、成績分布の著しい偏在に留意すること、成績評価に関する情報の開示に備えること、可能な限り試験後に答案を学生に返却し採点基準や平均点、成績分布を示すことなどが明示されている。各授業科目の成績評価は、担当教員の責任下において、シラバスで公表している評価項目とその割合に基づいて行われている。成績に関する問い合わせに対して教員が直接学生に答えることを禁じ、必ず事務職員を介すこと義務付けている。これにより成績管理の厳格性を担保している。
卒業認定については、全学および学部または学科ごとに卒業認定方針を策定し、大学ウェブサイトで一般に公表している。卒業に必要な修得単位数など卒業に係る基準は、学則

で、卒業及び学位についての章を設けて、定めている。

各学部の学位授与方針と卒業認定基準については、学生便覧に明記して学生に周知するとともに、入学時のオリエンテーションと年度初めの在学生向け履修ガイダンスで時間を割いて説明している。

学生の成績は、教務システムで一元管理しており、その出力結果を基に、各学部の教務委員会で、在学期間などを含めて卒業の可否を確認している。この結果は、さらに、各学部教授会においても審議される。これらの結果を受け、最終的に学長が卒業を認定する。

学部名	学科名	卒業に必要な単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
外国語学部	英米学科	124 単位		
	ヨーロッパ学科	124 単位		
	中国学科	124 単位		
	国際関係学科	124 単位		
日本文化学部	国語国文学科	124 単位		
	歴史文化学科	124 単位		
教育福祉学部	教育発達学科	124 単位		
	社会福祉学科	124 単位		
看護学部	看護学科	129 単位		
情報科学部	情報科学科	126 単位		
GPAの活用状況 (任意記載事項)		公表方法 :		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法 :		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法 :
https://www.aichi-pu.ac.jp/about/special/campusmap.html
https://www.aichi-pu.ac.jp/about/special/campusmap02.html
https://www.aichi-pu.ac.jp/disclosure/environment/education.html
https://www.aichi-pu.ac.jp/education_and_research/index.html

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
全学部学科		535,800 円	282,000 円	0 円	

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
(概要)
<p>全新生に対して、入学直後の3日間に各種ガイダンス、オリエンテーションを実施している。その中で、授業の履修に関わるものは、全学履修ガイダンス、学科・専攻別履修ガイダンスおよび個別履修相談で行っている。全学履修ガイダンスでは、履修方法や成績評価を中心に大学での学びの特徴について説明し、学科・専攻別履修ガイダンスでは、各学科・専攻における授業科目の説明、必修単位数、履修における注意点を中心に説明を行っている。看護学部は、守山キャンパスにおける教務および学生支援を説明する看護学部ガイダンスを</p>

実施している。さらに学科別ガイダンスで、授業科目の選択やゼミの選択、卒業論文・卒業研究に関する説明を行うとともに、履修相談も実施している。学生支援に係る情報については、学生便覧、オリエンテーション、教育支援システムポータルサイト、掲示を通じて学生に周知している。また、授業時間外における学習支援として、SAを活用した図書館パソコン室等での利用サポートや、外国語でのコミュニケーション上達のための留学生やネイティブ教員と会話ができる時間の設定(iContact)、ネイティブ教員が英語の授業に関する相談、検定試験対策、学会発表サポートなど学生の個別相談に対応する「教養英語相談室」の設置など、学生の個別ニーズに対する支援も行っている。

また、障害者差別解消法の施行を受けて「障害学生支援連絡会議」を立ち上げ、大学として障害のある学生の支援を行っている。障害学生支援コーディネーターが支援内容を調整し、講義の内容を知るために必要な情報保障（ノートテイク）、授業で使用する映像の字幕付けなどの支援を行っている。支援の仕組みとして、学生による修学支援サポーター制度も設けている。

b. 進路選択に係る支援に関する取組

(概要)

キャリア支援室による就職相談は、長久手キャンパスに専門相談員を配置するほか、名古屋駅近くのサテライトキャンパスでも週に3日程度の相談日を設定し、就職活動中の学生が利用しやすい環境を整備している。長久手キャンパスでは、就職相談の他、就職ガイダンスおよび学内企業説明会の開催、模擬面接等を実施している。また、インターンシップについては、企業とのマッチングをはじめ、ガイダンス、事前事後研修、体験報告会等を行っている。守山キャンパスでは、看護学部および看護学研究科学生を対象とした進路情報室を設置し、進路説明会、実習病院による就職説明会を開催するほか、学部4年生を対象とした外部講師による看護師国家試験対策講座や模擬試験を実施している。

c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組

(概要)

学生の健康管理については、保健師が健康相談のほか、定期健康診断、応急処置、禁煙指導等の啓発活動を含む総合的な健康管理に携わっている。心理的な相談については、学生相談室を開室し、学生相談カウンセラー（臨床心理士）による相談を毎日実施し、精神科校医によるメンタルヘルス相談を年間7回行っている。

また、学生生活の様々な問題に対応できるように、学生相談室制度に基づく学生相談員（各学科、研究科から選出された教員）が、学生の指導・助言・支援を行う重層的な支援体制を構築しており、大学 Web ページで情報提供をしている。

更に適切な支援が行えるように、保健室（保健師）と学生相談コーディネーター（カウンセラー）および障害学生支援コーディネーターの三者で、適宜、情報共有を行い、学務課と緊密に連携を図りながら支援に繋げている。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：https://www.aichi-pu.ac.jp/education_and_research/index.html

(別紙)

※この別紙は、更新確認申請の場合に提出すること。

※以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校名	愛知県立大学
設置者名	愛知県公立大学法人

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		213人	223人	-人
内 訳	第Ⅰ区分	124人	134人	
	第Ⅱ区分	52人	59人	
	第Ⅲ区分	37人	30人	
家計急変による支援対象者（年間）				-人
合計（年間）				241人
(備考)				

※本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等		
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	0人	人	人
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位数が標準単位数の5割以下)	-人	人	人
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	0人	人	人
「警告」の区分に連続して該当	0人	人	人
計	-人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	0人	前半期	人	後半期	人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人

(備考)

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの に限り、認定専攻科を含む。）、 高等専門学校（認定専攻科を含 む。）及び専門学校（修業年限が 2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数 の6割以下 (単位制によらない専門学校に あっては、履修科目の単位時間 数が標準時間数の6割以下)	0人	人	人
GPA等が下位4分の1	40人	人	人
出席率が8割以下その他 学修意欲が低い状況	0人	人	人
計	40人	人	人

(備考)

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。